

資生堂における 「プライバシーガバナンス」の取り組み

2021/09/14

株式会社 資生堂

情報セキュリティ部 藤井 正浩

弊社について

商号	株式会社 資生堂 / Shiseido Company, Limited
本社所在地	東京都中央区銀座7-5-5
設立	1927年（昭和2年） ※1872年（明治5年）、洋風調剤薬局「資生堂」創業
代表者	代表取締役 社長 兼 CEO 魚谷 雅彦
グループ会社数	78社（2020年12月31日現在）※本社除く/非連結子会社及び持分法非適用会社含む
資本金	645億円
連結売上高	9,209億円（2020年12月期決算）
従業員数	39,035人（2021年1月1日時点）※就業人員数
事業内容	スキンケア、メイクアップ、フレグランスなどの化粧品事業（展開する国・地域：約120） レストラン事業、教育・保育事業など



弊社のDXの取り組み

Eコマース

- 2021年上期
グローバルEコマース比率：
30% (+20%台後半)
- プレステージブランド
Eコマースサイト数
2021年上期：+2
累計：92



店頭・オンラインの融合

- CRM強化、データプラットフォーム整備
- 2021年上期
プレステージ顧客データ数：+35%
- Omise+：
お取引先さま500店以上が参加
7月オンラインビデオカウンセリング始動



デジタル能力開発



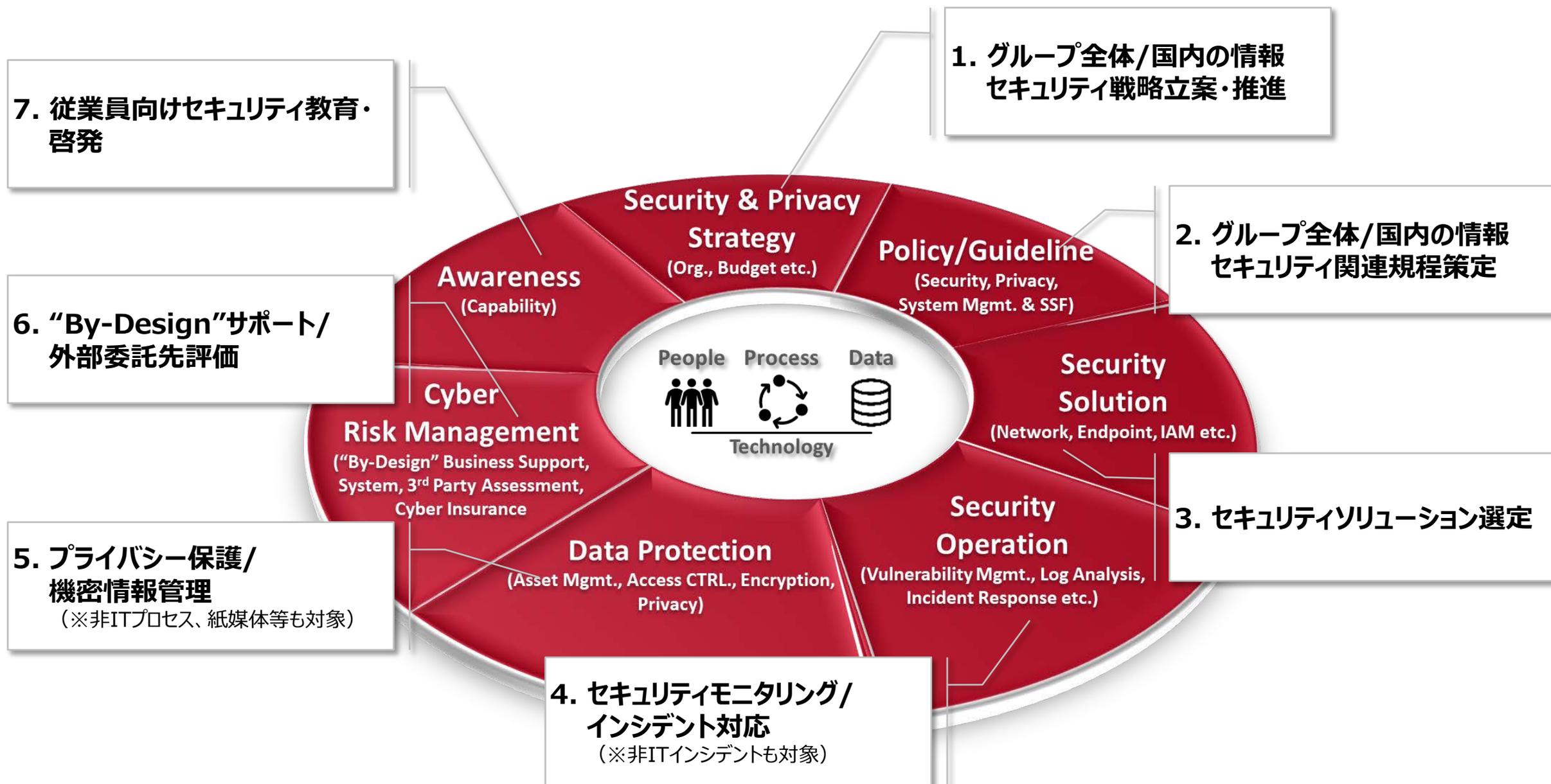
- 「資生堂インタラクティブビューティー」始動



- デジタルアカデミー
総受講者数：8,275人
(2020年末比+10%)



情報セキュリティ部について



1

プライバシーガバナンスに取り組んだ背景

2

プライバシーガバナンスの取り組み状況

3

プライバシーガバナンスの課題意識と今後の取り組み

1

プライバシーガバナンスに取り組んだ背景

2

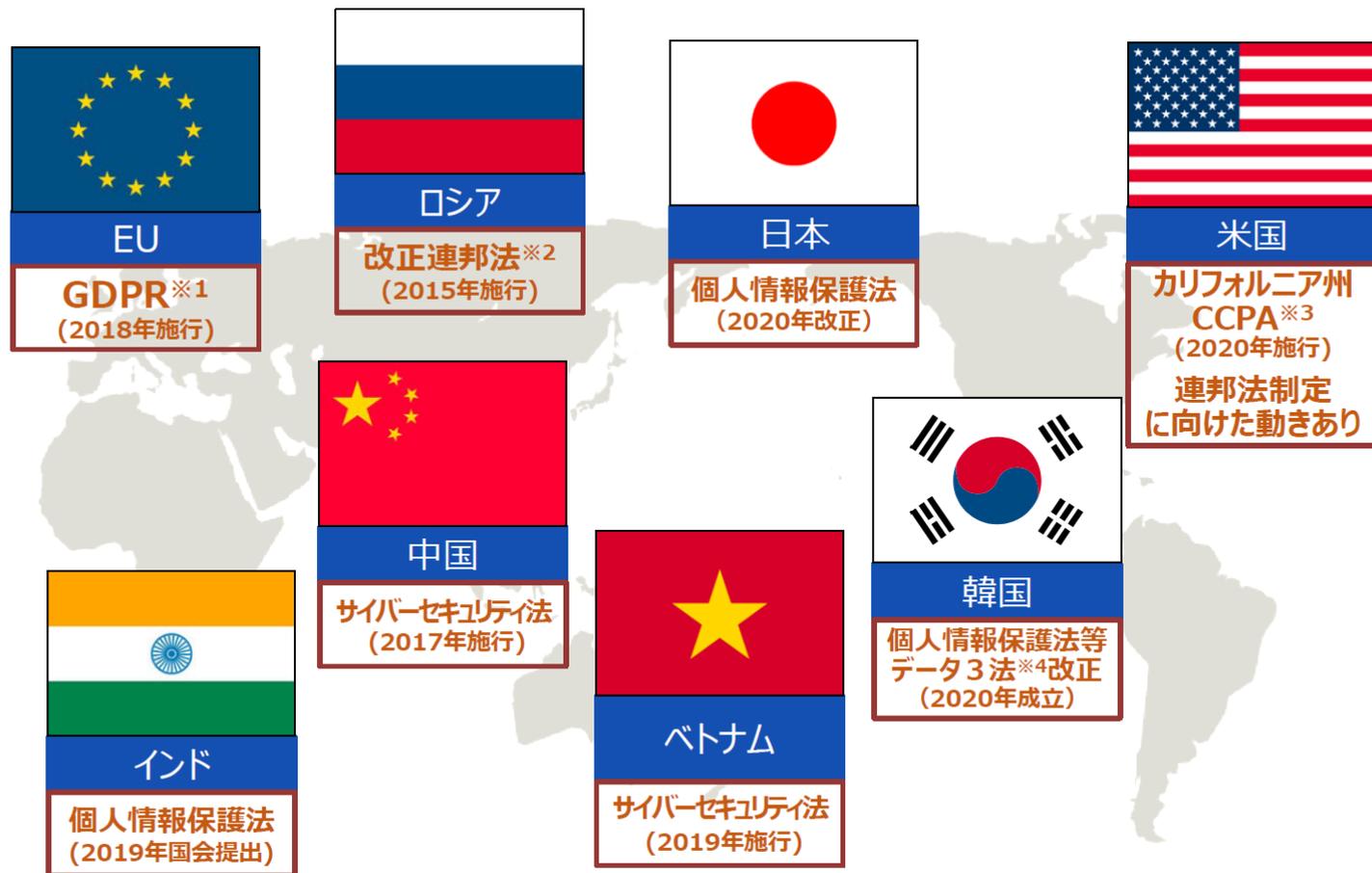
プライバシーガバナンスの取り組み状況

3

プライバシーガバナンスの課題意識と今後の取り組み

世界のプライバシー関連法規制の動向

- ◆ プライバシー関連法規制が世界中で制定・改正されており、資生堂はグローバルカンパニーとして、これらの法規制に適切に対応する必要。
- ◆ 国内においては、**2022年4月に施行される改正個人情報保護法**に対応する必要。



※1 : GDPR : General Data Protection Regulation (一般データ保護規則)

※2 : 改正個人データに関するロシア連邦法

※3 : CCPA : California Consumer Privacy Act of 2018 (カリフォルニア州消費者プライバシー法)

※4 : 個人情報保護法、情報通信網利用促進および情報保護などに関する法律、信用情報の利用および保護に関する法律

最も信頼できるビューティーカンパニーとして社会から認められるために

- ◆ プライバシー保護は、プライバシー関連法規制の遵守だけにとどまらない。
- ◆ 良好なプライバシー保護は、**企業価値の向上**にもつながる。
- ◆ “Privacy is not about hiding; it is more about **our willingness to trust.**” (Forbes)

THE SHISEIDO PHILOSOPHY
to become **the most trusted**
beauty company in the world

法規制要件への対応



社会からの信頼獲得



プライバシーガバナンス

アジェンダ

1

プライバシーガバナンスに取り組んだ背景

2

プライバシーガバナンスの取り組み状況

3

プライバシーガバナンスの課題意識と今後の取り組み

個人情報取り扱い——具体的な事例

ブランドでのSNSを用いたキャンペーン

エリクシールの温感メイク落とし
先行サンプリングキャンペーン

応募期間：2021.8.23（月） - 8.29（日）

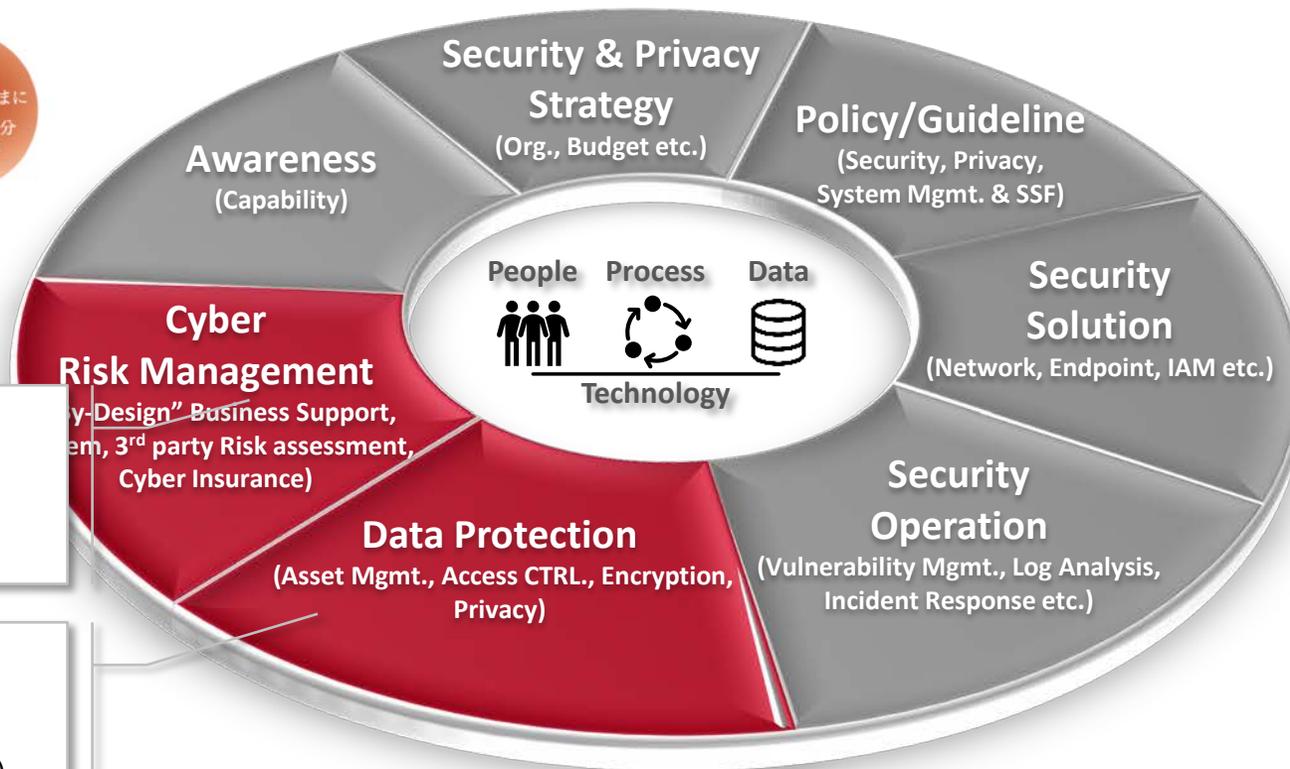


(弊社サイトより)

6. “By-Design”サポート/
外部委託先評価

5. プライバシー保護/
機密情報管理

(※非ITプロセス、紙媒体等も対象)

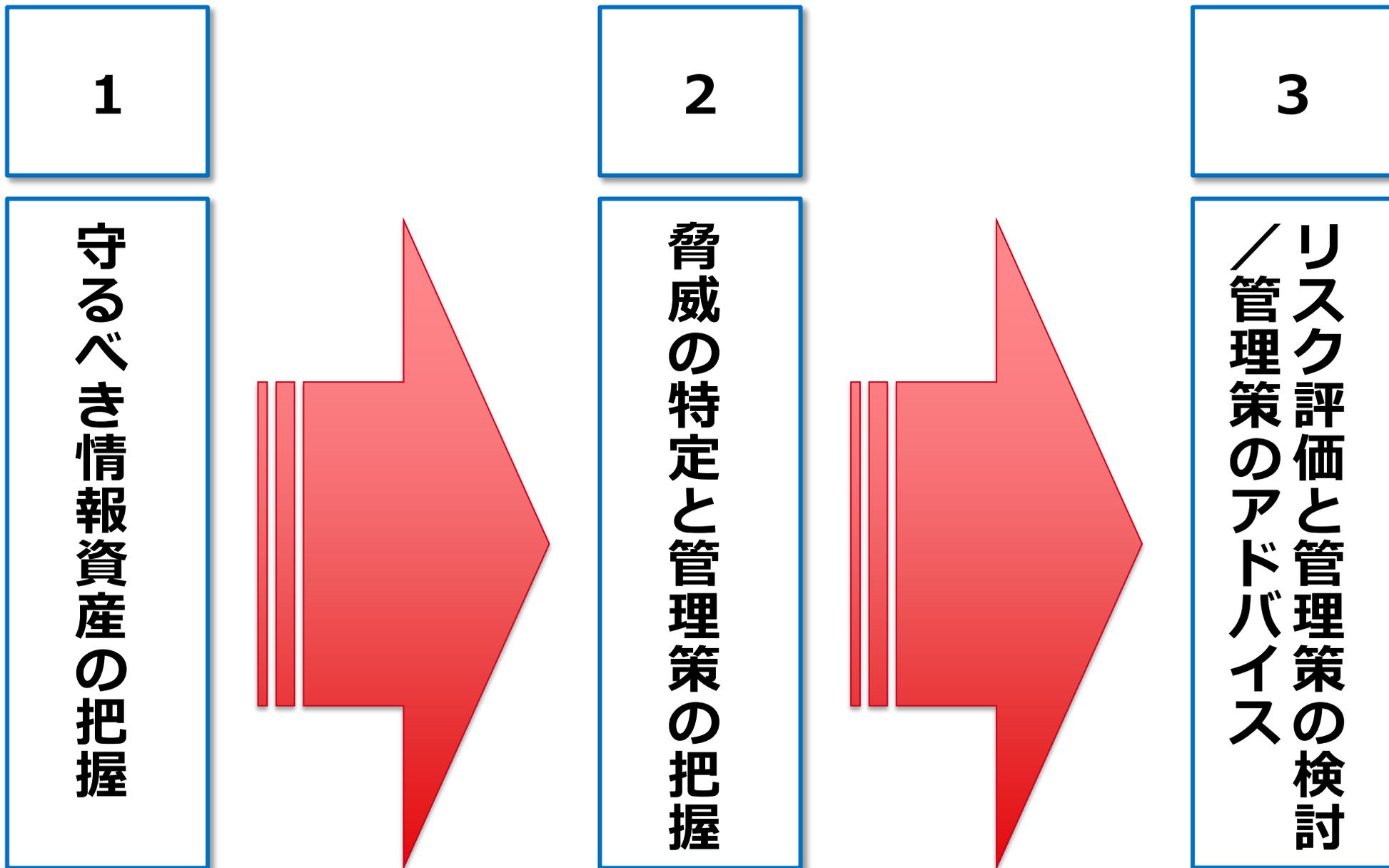


研究開発のための試験やアンケート



(弊社サイトより)

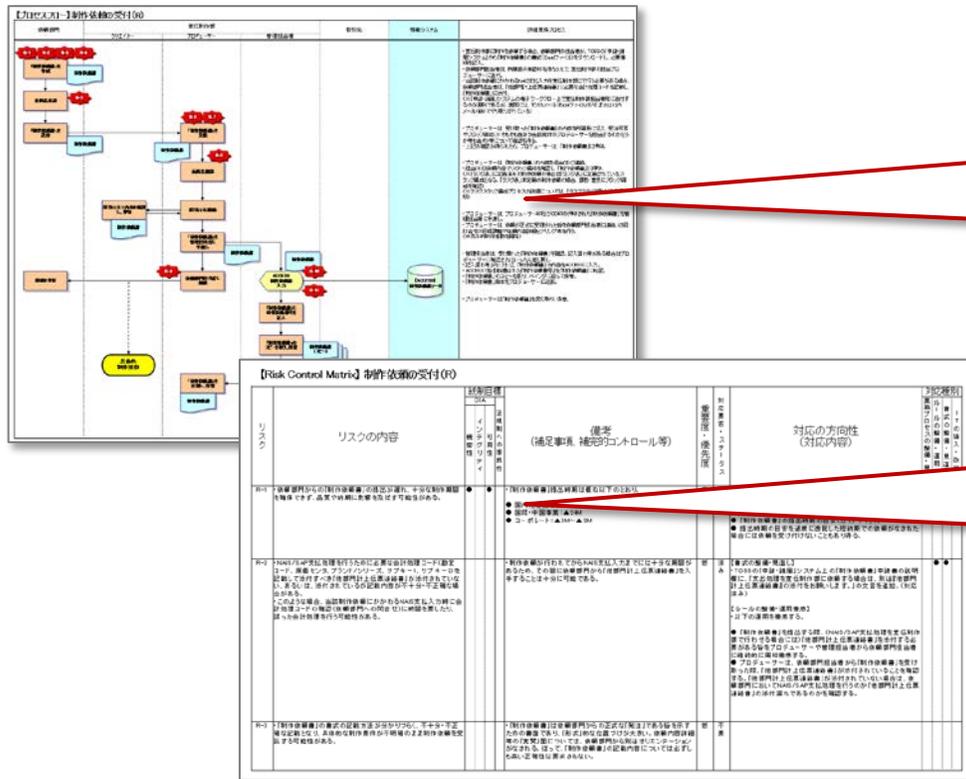
資生堂のPIAの流れ



内部統制評価のアプローチを参考 (①業務フロー、②業務詳細記述、③RCM)

◆ 内部統制評価で使用される「3点セット^注」は、PIAにも有効なツールと考えています。

(注) ①業務フロー、業務詳細記述、③RCM (リスクコントロールマトリクス)



対象の業務について、
個人情報を取得してから、利用・保管、消去するまでを、
“業務の流れ”と、“データの流れ・保管”を押さえて理解する。

機密性・インテグリティ・可用性が損なわれる恐れはないか、
プライバシー関連法規制に違反することはないか、その他の
リスクはないかを確認し、対策を検討する。

「個人データの取り扱われ方」を可視化し、リスクを特定する

PIAに必要なスキルセット



+ プライバシーに関する消費者の意識や先進企業の取り組みについての情報収集

アジェンダ

1

プライバシーガバナンスに取り組んだ背景

2

プライバシーガバナンスの取り組み状況

3

プライバシーガバナンスの課題意識と今後の取り組み

**現在、運用の効率性の向上と
標準化に取り組んでいます。**

SHISEIDO

